

⑤ 覚 (質代金子 1250 両)

慶応2 (1866) 年11月

渋沢栄一の伯父宗助 (1795 ~ 1871 年) は、武蔵国榛沢郡血洗島村 (埼玉県) の名主でした。上野や信濃など養蚕地をめぐって技術を学び、安政2 (1855) 年『養蚕手引抄』を出版して地域の養蚕法を改良し、養蚕・蚕種などで巨財をなしたといわれています。

この史料では、宗助の代理前橋本町の和泉屋が、沼田の豪農黒岩左大夫の名代3名に対し、宗助からの預かり金から1255両を質代金にあてる旨が記されています。この中で「4箇」というのは生糸1駄を指し、約1440両に相当し、横浜へ送る生糸取引に関わり出された書状の可能性がります。

沼田市・黒岩英夫文書 P8311 No. 6957

【史料⑤】

覚

一 質代金千貳百五拾兩也 但し廿五

但し△印御改め済み四箇抱へ合せ壹箇ノ五箇

封印の俣 卯正月九日 内金八百五拾兩請け取り

右は、渋沢宗助より預かり金の内にて

質物に慥に預かり置き申し候、来る卯正月

九日限り、断り無く相流し申し候、以上

慶応二年 渋沢宗助代

寅十一月 和泉屋

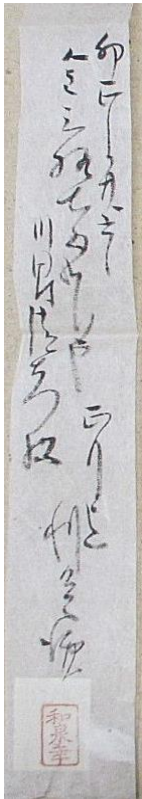
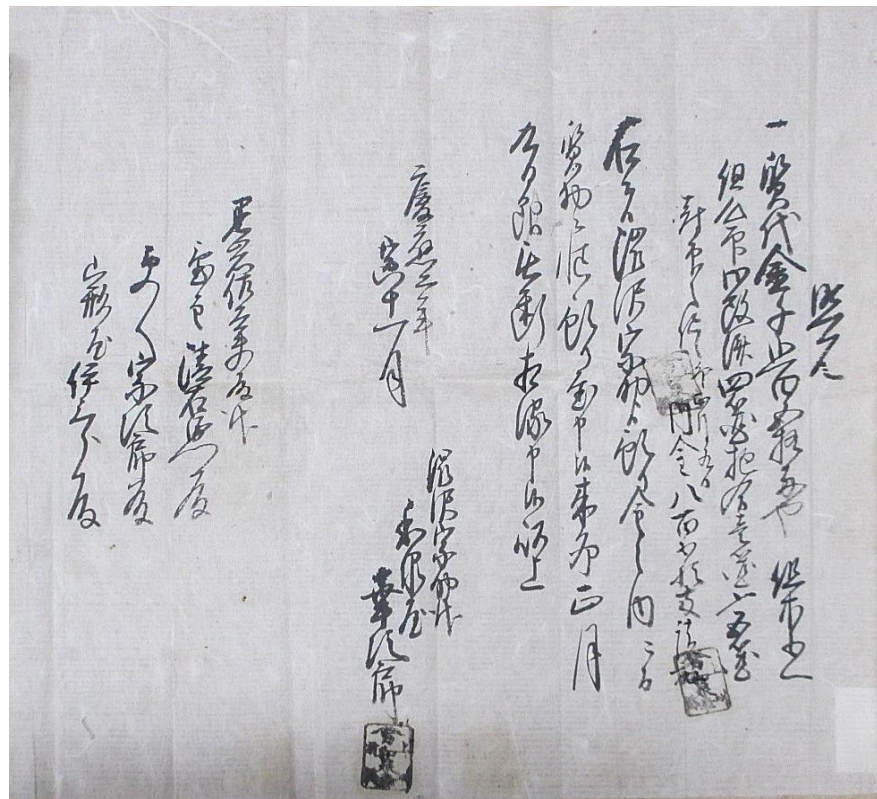
幸次郎 印

黒岩佐太夫殿代

置主 清右衛門殿

受人 宗次郎殿

山形屋伊三郎殿



(別紙)

卯正月廿六日

金三拾七兩式分也

川田村清右衛門様

正月迄

利兵衛

印